

magis

St. Ignatius Church



『マジス』はラテン語で、イエズス会のモットー「神のより大いなる栄光のために」を表しています。

教会テーマ『勇気と寛大な心をもって出かけて行きなさい』(教皇フランシスコ)―「ミッション2030」―福音を伝える

■四旬節中のお手伝い募集のお知らせ■

- ・ 3月20日(水) 「年間予定表」の封入作業 9時～12時 アルペホール
数量が約8,000通と多いので、多くの方のお手伝いをお待ちしています。
- ・ 4月12日(金) 棕櫚の枝切作業 10時～12時 ヨセフホール
受難の主日に使用する棕櫚の準備をします。事務室へお申込みください。(持ち物 エプロン・軍手・花ばさみ)
- ・ 4月20日(土) イースターエッグの飾りつけ作業 9時～12時 ヨセフホール
お子様も参加できます。事務室へお申込みください。(持ち物 エプロン)

死を見つめる

私は司祭になってよかったなと思うことの一つは、人の死に向き合うことができるということです。ある方とは、死が近いという状態の中でお話をさせていただいたこともあります。死という私たちにとって大きな現実に対して、どう向きあったらいいか。私たちは死を前にするとき、自分の小ささ、無力さを実感します。でもそれはとても大切な気づきなのだと思います。その無力さの中で、心からイエス様の存在を求め、イエス様にどうかこの私と共にいてください、私の側にいてくださいと願い祈る。その祈りがとても大事です。人は死を迎えるにあたって、自分がその時置かれている状態によってどのような死のかたちになるか違ってくるでしょう。それでも共通して言えることは、どのような死であっても、大切なことはそれまでをどのように生きることができたかということです。私たちがこの世を生きる上で神様から求められていることは、神様の前で豊かになる生き方をすることです。

人が本当に幸せを実感しているかどうかを計るためには、自分の心の中に落ち着いた平安の思い、そして心が満たされている思いが実感できているかを見ていく必要があります。そしてまた、想像の目をもって、自分にもいつの日か訪れる死の旅立ちの姿を想像して、自分が死の

床にあってどのような心の状態でいられるのが一番幸いなのか今から考えておくことは大事なことです。ある人は、皆死ぬ時は恐れと悔やむ心しかないと思うかもしれませんが、でも本当に自分の人生を振り返って、感謝と喜びの心をもって死に臨む人がおられることも私たちは忘れてはいけません。自分にも足りないところや欠点がたくさんある。それでもいつか自分にも訪れる死を迎えるときに、心が感謝と喜びで満たされるような生き方をしていきたい。そのために今できること、していったらよいことを見つけて実行できるようになっていきたい。もしそのことを願って心から祈っていくなら、イエス様はその思いを、その祈りを祝福して下さるでしょう。普段から、いつも今日という日を精一杯過ごせたかな、無駄にすることなく、与えていただいた時間を精一杯使うことができたかなと思うことを大事にできたらと思います。私たちは最後まで失敗だらけの人生かもしれませんが、それでも心の中に祈りと神様の前で豊かになる生き方の大事さを保ち続けることができるなら、その心が私たちを様々なとらわれから自由にし、本当の喜びに導いてくれるのだと思います。

助任司祭 田丸 篤

2019年 四旬節と復活祭の予定

- 3月21日(木) 祝日 四旬節黙想会
10:00~14:30 主聖堂
15:00からミサ
- 4月14日(日) 受難の主日(枝の主日)
- 4月18日(木) 聖木曜日 主の晩餐 19:00
- 4月19日(金) 聖金曜日 主の受難(大斎・小斎)
19:00
- 4月20日(土) 聖土曜日 復活徹夜祭 19:00
- 4月21日(日) 復活の主日 聖体奉仕者任命式
10:00 ミサ
洗礼式 15:30 ミサ

十字架の道行

下記の金曜日 18:45 から ザビエル聖堂にて
3月8日、3月15日、3月22日、3月29日
4月5日、4月12日
4月19日は 15:00 から マリア聖堂にて

3月の共同祈願

四旬節を迎えた私たちが、主のご受難を思い起こし、その愛を心にとめ、苦しい時にも乗り越える勇気と、他者のために生きる喜びをお与えください。主の恵みに感謝し、主の十字架に心を合わせて祈ることができますように。

3月6日の灰の水曜日から四旬節にはいりません。四旬節は イエスのご受難に思いを馳せ、私たち自身の毎日の生活を見つめ直し、反省と回心に励む時期です。神様の呼びかけに耳を傾け、希望の光を見だし、勇気を持って前に進んでいきましょう。

また、洗礼志願者を迎え入れる準備期でもあります。信仰を求める方々を積極的に迎え、神様が私たち一人ひとりを愛してくださっている事を伝えるのも私たちの大切な使命です。



ワールドユースデーパナマ大会

帰国報告会

日時：3月3日(日) 14:00~15:30
場所：ヨセフホール
皆様のご参加をお待ちしております。



日本巡礼団の十字架を担う派遣者3名

私たちは1月にパナマで開催される世界青年の日(ワールドユースデー)に日本公式巡礼団として参加してきた。この大会は3年に一度開催され、世界の各国から若者の信者が集まり、2週間の巡礼の旅で共に歌い、共に分かち合い、共に祈った。参加者は70万人ほどおり、パナマに降り立った空港から街までほとんどの場所で参加者と出会うほどパナマはWYD(ワールドユースデー)で一色だった。私たちはパナマについては小教区での活動としてチトレという場所で一週間活動し、その後パナマシ

ティで行われる本大会に参加した。小教区での日々は同じ地域に滞在する各国の参加者や地元の人々と深く関わることができ、本大会では小教区の何十倍とも言える人々たちと教皇様のミサに与り、聖書の御言葉を世界の人々と分かち合うことができた。またそれらのミサや活動で感じたことを毎日、日本のグループでも分かち合いを行い様々な思いを持って参加し、それぞれの異なった感じ方も共有することができた。2週間という期間で同じ巡礼団として参加したが、個々がこのWYDで感じたものや得ることができたものは様々であった。



チトレ(小教区)でのホストファミリーと日本巡礼団

ワールドユースデー感想

日本に帰ってきて数日。感じるのは圧倒的な便利さ快適さ、その裏にあるどこもない寂しさでした。ワールドユースデーでのチトレ地区、パナマシティでの数日間、自分が常々感じたのは人々の愛の力でした。不便さがある中でも、街の人々の大会、参加者への心遣い。街で出会う各国の参加者の笑顔。規律がない、そんな中だからこそ見られる譲り合い。一瞬一瞬に愛が感じられました。

ところが日本の自宅ではお隣さんとトラブルを起こしている始末。私達は規律や快適を持った代わりにそれよりも大事なものを忘れてしまっているのではないか。互いに愛し合うことの喜びをどうか思い出して欲しいと思いました。

「帰ってきた」と前記しましたが、今の感覚としては「遣わされた」と言う方が正しいかもしれません。ワールドユースデーで得た多くのお恵み、力。これを自分以外の人のために捧げていけるよう「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように」と祈り続けようと思います。



最上階のベランダから声をかけてくれた少年

トマス・ヨセフ 今田 大河

私がこの WYD で得たこと

私はこの大会で特に感じたことは世界中の若者が持つエネルギーである。教皇様のお話にも出てきた「若者たちは溢れる青年のエネルギーと信仰を持って前に進みなさい」ということについて、初めは私自身がそのような強いエネルギーを持っている存在の一つであると感じていなかった。この WYD に参加している人々と祈っていると文化も言語も肌の色も様々であるけれど、神様のお導きによって集まり共に祈ることができていてそれはそれぞれが勇気を持って一步を踏み出すことができたから出会えたのだと感じることができた。小さな私の行動にも神様は目を留めて共に歩んでくださっているということを改めて感じる事ができ、私自身もこの今しかない時間や力や考えを持って神様と共に歩み続けて行きたいと強く感じる事ができた。この WYD では普段の生活では感じる事ができないエネルギーや感動をたくさん味わうことができ、今回参加できたことに心から感謝すると共に、この

得たものを今後は教会の人々のために活かしていきたいと思う。



日本からのお土産をホストマザーにプレゼント

ルチア 島田 直

WYD で私が感じたこと、得たこと

WYD パナマ大会での日々を過ごして、今まで日本では感じる事のできなかったあらゆる想いに触れることができました。Wi-Fi 環境もなく、英語も通じない中でどのようにして相手と分かり合うことができるのかと悩んだ時もありましたが、さすが同じ人間として、言葉が通じなくても分かり合える喜びというものを実感した瞬間もありました。さらにパナマシティでは、教皇様が仰っていた「ソファーにばかりいる若者は必要ありません」という言葉を身にしみて実感しました。みんな携帯電話を持っていたが、日本人のようにゲームをする人はおらず教会が団欒の場所となっていました。宗教が生活の中心となっており、個々に活動を行っている姿を見て、私は自分がどれほどソファーにいる人間であるかを思い知らされました。これからは未来の教会ではなく今の教会と共に、そして青年として世界と関わっていきたくと思います。

WYD に参加するにあたって、信徒の皆様をはじめとする多くの方々の助けがあったからこそ、自分にとって一生忘れることのできない素晴らしい経験をする事ができました。この感謝の気持ちを忘れずに日々過ごしていきたいと思っています。



人混みの中で運良く再会できたチトレでお世話になった方

ジャンヌ・ダルク 高橋 美保

広報担当スタッフ募集

教会広報に関するご奉仕を担当している「広報連絡会」では、今後さらに宣教活動に力を入れていくために、一緒に活動して下さる信徒の方を募集することになりました。

当教会の所属信徒で、以下のようなスキル、知識、興味をお持ちの方はぜひご応募ください。自薦他薦を問いません。

- 1) ポスターやチラシの制作ができる方
- 2) IT関連のスキルや知識をお持ちの方
- 3) インターネットを使った情報配信に興味のある方
- 4) 写真撮影が得意な方、興味がある方、
- 5) 広報関係の奉仕に関心がある方

応募は、【お名前、連絡先（電話またはメールアドレス）、担当してみたい分野】をお書きになり、教会事務室にご提出いただくか、下記アドレスにメールにてお送りください。

ig_kouhoustaff@ignatius.gr.jp

締め切りは4月21日（日曜・復活の主日）です。
どうぞよろしくお願いたします。

四旬節黙想会

3月21日（木）春分の日
テーマ：神のしもべ ペドロ・アルペ
－ 他者とともに生きた人 －

指導：酒井陽介神父
場所：主聖堂

午前の部 10時～11時半
午後の部 13時～14時半
15時からミサ

ラビリンス・ウォーク

ラビリンス・ウォークは、「ラビリンス」と呼ばれる神聖な模様を描かれた道を歩きながら、祈り、黙想する、ウォーキングメディテーションです。
はじめての方もお気軽にご参加ください。

開催日：3月9日（土）
時 間：10時～16時（受付終了）
場 所：ヨセフホール

教会事務室から

4月30日（火）、5月1日（水） 教会事務室はお休みです。
教会の個別利用はできません。
4月29日（月）、5月2日（木）、5月3日（金）、5月4日（土）、
5月6日（月） 信徒会館は19時に閉館します。

ミサの時間 Mass

【平日 Weekday】 主聖堂 Main Chapel

7:00 / 12:00 / 18:00

【日曜日 Sunday】 主聖堂 Main Chapel

土曜 18:00 / 7:00 / 8:30 / 10:00 / 18:00
12:00 (English) / 13:30 (Español)

【月の第1日曜日 1st Sunday】

Main Chapel 15:00 (Việt Nam)
Our Lady's Chapel 12:30 (Português) 16:00 (Polski)
Xavier Chapel 16:00 (Indonesian)

【月の第3日曜日 3rd Sunday】

Main Chapel 15:00 (Việt Nam)
Our Lady's Chapel 16:30 (Indonesian)

主任司祭：英 隆一朗

助任司祭：李 相源

田丸 篤

協力司祭：ヘネロソ・フローレス

ハビエル・ガラルダ

酒井 陽介

ブラザー：吉羽 弘明

シスター：イベッテ・サンチェス
(セントロ・ロヨラ)

ローズ・レミジオ
(ジョン・デ・ブリッド イングリッシュセンター)

カトリック麴町教会（聖イグナチオ教会）

〒102-0083 千代田区麴町6-5-1

TEL 03-3263-4584 FAX 03-3263-4585

ホームページアドレス : <http://www.ignatius.gr.jp>